



二代喜助の設計・施工による「第一国立銀行」(1872年竣工)は、東京の新名所として人々に親しまれました。

いまなお原点、 渋沢翁の教え。

日本を代表する実業家、渋沢栄一翁。
その渋沢翁と清水建設(当時・清水屋)との間に、
現在にまで脈々とつながる縁があることをご存知でしょうか。
それは1871年、二代喜助が第一国立銀行(当時・三井組ウエの
建築を請け負ったことに端を発します。

日本にまだ西洋建築がほとんどない時代、
二代喜助が外国人技師の指導によらず、
頭一つから絞り出して建てた意気を
渋沢翁は高く評価したといえます。

その後も、両者の信頼関係は続きましたが、
より深い関係へと至る大きな転機は、三代満之助の急逝でした。

三代満之助の遺志により渋沢翁に相談役就任を依頼、
その際に当社経営方針の原点とも言える
「論語と算盤」の教えを得ました。

これは、道理に適った企業活動によって社会に貢献し、
結果として適正な利潤を得て
社業を発展させるという考え方です。

二代喜助以来恩顧を受け、三十余年にわたり
直接指導を受けてきた「論語と算盤」の教えは、
当社の社是として受け継がれ、
誠実なものづくりの精神とともに、
いまでも従業員一人ひとりが立ち返る
原点であり続けています。



渋沢 栄一

(提供 東京商工会議所)

子どもたちに誇れるしごとを。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設



清水建設は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。
<https://www.shimz.co.jp/company/about/strategy/>